

第14回奈良支部学術集会

学術集会会長：地方独立行政法人奈良県立病院機構
奈良県総合医療センター院長 菊池英亮



会場風景

2019年2月2日(土)に、奈良県総合医療センターの講堂・2階外来ホール等を会場として第14回奈良支部学術集会を開催いたしました。

今回のテーマは、「医療は心と技と協働で～礎を築くのは今～」とし、基調講演は畑埜クロスマネジメント代表の畑埜義雄先生に「病院マネジメントはフォローシップから」と題して講演を頂きました。

参加者数は515人、口演発表36題・ポスター演題75題の合計111題の演題が発表されました。シンポジウムでは、「協働して取り組むリスクマネジメントの再考～多職種の立場より～」の題にて医師・看護師・薬剤師・臨床工学技士が、それぞれの立場よりリスクマネジメントへの取組を発表し、活発な意見交換が行われました。また、閉会式では、口演とポスターのそれぞれから優秀演題を表彰し、発表者のモチベーション向上に繋げる事ができました。今回、県内多くの医療関係者に参加いただき、本学術集会が無事に開催できたことを皆様に感謝申し上げます。

第14回和歌山支部学術集会

学術集会会長：国保日高総合病院院長 曾和正憲



会場風景

2019年2月2日(土)に和歌山県勤労福祉会館(プラザホープ)を会場として、日本医療マネジメント学会第14回和歌山支部学術集会を開催いたしました。

当日は、県内全域から214名のご参加をいただくことができました。

今回は「災害時における地域連携～災害への備えと

災害に強い地域連携を目指して～」をメインテーマとして、特別講演2題、ランチョンセミナー、一般演題発表(口演31題、ポスター16題)が行われました。

特別講師として3名の先生方をお招きし、特別講演1では「地域における防災対策と医療機関が準備すべきこと」と題して、学校法人神戸学院大学現代社会学部社会防災学科教授 中田敬司先生に、また特別講演2では「和歌山県における災害医療の取り組みの現状と地域医療連携の重要性」と題して、国立病院機構災害医療センター臨床研究部 厚生労働省DMAT事務局 岬 美穂先生に、そしてランチョンセミナーでは、「災害に強い県を目指して～千葉県災害医療体制強化のための取り組み～」と題して、医療法人鉄蕉会亀田総合病院臨床検査室 太田 麻衣子先生にご講演いただき、すべての講演が大盛況でありました。

一般演題発表(口演・ポスター)についても充実した内容で、各施設や行政等の取り組みについて活発な意見交換をしていただきました。

最後に本学術集会が盛会のうちに終了できたことをご協力いただきました関係各位に深く感謝を申し上げます。

第22回岡山県支部学術集会

学術集会会長：岡山済生会総合病院院長 山本和秀

2019年2月2日(土)に岡山済生会総合病院さいゆうホールにおいて、第22回岡山県支部学術集会を開催いたしました。



会場風景

メインテーマを「人生の最終段階における医療と介護について考える」としまして、県内外から287名のご参加をいただきました。

特別講演では、国立長寿医療研究センターの千田一嘉先生から「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)の意義と実践～フレイルという高齢者評価軸を活かした人生最終段階のケアの拡充～」と題してご講演をいただき、その後のシンポジウムでは、開業医、訪問看護、救急、岡山市、患者家族の視点より、岡山におけるACPの現状と課題について活発な討論が行われました。ランチョンセミナーでは岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科教授 松岡順治先生より「最善と